

野菜振興協会技術部会における現地検討会の開催

5月14日に、トマト及びナスを対象に、野菜振興協会技術部会の現地検討会を開催しました。

トマトにおいては、環境測定装置と光合成促進装置を導入しているほ場を視察しました。現在、技術部会では、二酸化炭素濃度や気温、湿度等の各種データを集積し、環境制御を導入していない施設との比較を行いながら、収量・品質の向上を目指して検討を行っています。

ナスにおいては、玉名地域で取り組みが進んでいる天敵（スワルスキーカブリダニ、タバコカスミカメ）を用いてIPM導入技術に取り組んでいるほ場を視察しました。視察したほ場においては、アザミウマ類やコナジラミ類の発生も少なく、農薬の散布回数も天敵導入前に比べて半分以下に減少できており、天敵の定着は順調に進んでいました。今後も天敵導入予定の生産者が増加する見込みのため、引き続き技術の向上を目指していきます。

技術部会では、今後も定期的に現地検討会を開催し、部会員の技術向上に努めていく予定です。

